



# ミャンマー人ガラボーター

認定 NPO法人  
日本・ミャンマー  
医療人育成支援協会  
〒700-0815  
岡山市北区野田屋町2-4-18  
TEL: 086-224-0102  
FAX: 086-221-2554  
URL: http://www.mjcp.or.jp

## 支援活動たたえ 三木記念賞 岡田理事長に



伊原木岡山県知事(左)から表彰される岡田理事長

岡山県の三木記念賞を、協会の岡田茂理事長が受賞した。長年にわたってミャンマーの医療支援を続けてきた実績が評価された。

岡山市北区のルネスホールで8月31日、伊原木隆太県知事から賞状とメダル、賞金30万円が贈られた。岡田理事長

は「協会の皆さんや大勢の研究者、家族の支援があったから活動することができました。ミャンマーは今、厳しい状態にあり、受賞はもう少し頑張れ、というメッセージと受け止めています」と挨拶した。

岡田理事長は京都大学の講師だった1987年に初めてミャンマーでの医療支援に関わり、岡山大学教授、医学部

60年代に岡山県知事を4期務めた故三木行治氏にちなむ。同氏が64年、「アジアのノーベル賞」といわれるマグサイサイ賞を日本人で初めて受賞その賞金の寄付を受けた岡山県が創設し、地域社会に貢献した人に毎年贈っている。

**賞金は協会へ**

岡田理事長は賞金を協会に寄付した。



4年ぶりに対面での総会。説明はスライドを使って

車いす寄贈、学校建設へ  
田中奨学金は新たに2人

主な事業は、協会員からミャンマーへの寄贈申し込みがある車いすと小学校建設

設を実現。倉敷市の医療機器メーカーからすでに寄贈されている外科手術補助具

を届ける。日本へ研究者を招いての研修については、岡山大学などと協力して交流の可能性をさぐる。

故田中茂人理事からの寄付で設立の「田中医療奨学金」は支給中の岡山大学院留学生4人に加えて、新

ミャンマーからの留学生から16人が招待された。田中医療奨学金を受給中の4人を含めて岡山大学の12人。それに社会福祉法人「旭川荘」(岡山市中区)から介護福祉士の資格を取った2人と勉強中の2人。

協会の総会が8月5日夕、岡山市中区の岡山プラザホテルで開かれた。新型コロナウイルスの5類感染症への移行に伴って、4年ぶりの対面による開催。今年度(2023年7月〜24年6月)の事業計画と予算案を承認後、懇親会で会員同士、交流した。

▼2面||懇親会写真

クレーターで国軍が全権を握ったミャンマーでは政情混乱が続いており、今夏もまた非常事態宣言が延長された。協会活動も制約を受け、以前のような積極的な事業展開が難しい中の予算編成となった。今後、実現可能性がある事業があれば、予備費などで対応する。

今年度予算は一般会計2044万円、特別会計4238万円の計6282万円。予備費は一般特別会計合わせて約5千万円。

## 4年ぶりに総会開く 事業計画と予算承認

### 2023年度予算

[収入の部]		(単位 円)	
費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
繰越金	15,118,215	42,375,103	前年度より繰越
会費・入会金	1,275,000	0	会費170人、入会金5人 賛助会費12人、役員運営協力金15人
寄付金	1,500,000	0	一般寄付金
助成金	2,500,000	0	永山積善会、渋谷育英会
雑収入	50,000	0	預金利子
合計	20,443,215	42,375,103	
[支出の部]		(単位 円)	
費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
事業費計	3,950,000	4,500,000	<b>一般会計</b> ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業 2,000,000 他機関と協力して支援する事業 700,000 家賃地代 750,000 組織活動の公表に関する事業 500,000 <b>特別会計</b> 田中奨学金5人、 4,500,000
人件費	0	0	
会議費	200,000	0	理事会、総会費用
旅費交通費	1,500,000	0	出張旅費
通信運搬費	400,000	0	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	200,000	0	事務用品、電話機交換
水道光熱費	230,000	0	電気、ガス、水道代等
印刷費	50,000	0	総会資料印刷代
諸謝費	50,000	0	講演等謝礼
保険料	520,000	0	火災保険等
支払手数料	30,000	0	郵便振替手数料等
業務委託費	280,000	0	業務委託、会計事務委託料
地代家賃	750,000	0	賃貸契約に基づく固定資産税
雑費	100,000	0	
その他の経費計	4,310,000		
予備費	12,183,215	37,875,103	
合計	20,443,215	42,375,103	

会場 岡山プラザホテル  
撮影 豊田博医師(会員)

懇親会

# なごやかに 交流もどる



⑤招待されたミャンマーからの岡山大学留学生。前列の4人は田中医療奨学金の受給生  
⑥自己紹介する「旭川荘」の4人。介護福祉士の資格取得者も参加

協会の招きで、ミャンマーの病理医が4月に3週間、岡山大学病院で研修した。その報告です。

## 病理医として自信深める

### マンダレー医科大学 ココトン教授

私は9年前の2014年にも岡山を訪れており、倉敷芸術科学大学と岡山大学で3週間、細胞病理学(細胞診)の教育を受けました。その体験は大変貴重で、帰国後マギーとマンダレーの両大学で、70人以上の医療系大学院生と数百人の学部学生に細胞病理学の知識を教え、共有しました。

さらにその知識を、子宮頸部の細胞診で異常のある患者さんの診断に応用。患者さんは適切な時に外科治療を受けることができ、私は非常に感謝されました。このように日本で学んだ医学知識はミャンマーの医学界の多くに人たちに広がっているのです。

「成功者になろうとするな、価値のある人間になろうとしなさい」。アインシュタインが残した名言の一つです。私の価値は周りにいる患者さんや医学部の学生たちへ成し遂げた内容で測られるでしょう。そんな中、仕事を楽しみ、役割を愛し、岡山の人たちとの貴重な記憶を持ち続けることは、私の時間を価値あるものにするに違いありません。今回の岡山訪問は、軟部腫瘍の免疫組織化学のトレ

柳井教授がこれまでに集めてこられた多くの病気の病理スライドを見ることもでき、教授は多くのスライドをスキャナーで取り込むことを許可してくださった。検査室の沢山の図書も興味深く読むことができ、病理医として自信を深めました。

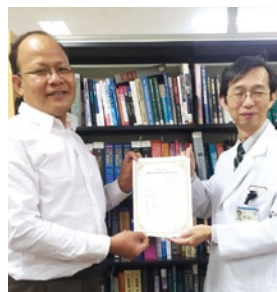
## 武田監事、退任

### 協会監事の岡山大学名誉教授武田和久さん(91)が7月、高齢を理由に退任した。

岡山大学医学部教授(公衆衛生学)のころミャンマーのC型肝炎対策に関わり、退職後も現地を訪れて指導や講演を続けた。協会設立時に理事、その後監事を務めた。

## 理事に柳井教授

新しい協会の理事に8月、岡山大学病院教授(病理診断科)の柳井広之さん(57)が就任した。柳井さんは2006年、協会がミャンマーから招いた初の研修生の病理医2人を指導。その後も継続的に研修生を受け入れている。ヤングの医学研究大会で講演、またコロナ禍の中でミャンマーの病理医にズームで講義した。



柳井教授(右)から研修終了証

編集後記  
コロナ禍を経て4年ぶりの協会の総会。「お久しぶりです」「お元気で何よりです」。あちこちで再会を喜びあう会員同士の挨拶が交わされました。その一方でこの間、現職理事や元監事、それにミャンマーに診療所を寄贈した会員ら、少なからぬ協会の関係者が亡くなりました。歳々年々人同じからず。その思い、しきりでした▼この4年間、かの国の政情は一変しました。民主化と経済発展にわく、21年2月の国軍クーデター。民主派勢力は抵抗し、国軍は激しい弾圧を続け、事態収束の兆しはみえません▼ちなみに4年前のミンガラバーを取り出してみました。19年9月1日発行のトップ記事は、岡山大学など日本国内6大学の博士課程で学んだミャンマーの医科大学の若手教員12人が見事、博士号取得というニュース。勢揃いした写真の1人ひとりの表情にこれから母国の医学教育を担うという決意が見てとれます。それが今、消息不明者がいるそうです。国軍への抗議活動によって追われ、どこかに潜んでいるのか、拘束されていないか…。そう思うと、やるせない限りです。(西崎)